

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4073300313		
法人名	株式会社太平洋		
事業所名	グループホーム ファミリー	ユニット名	1
所在地	福岡県宗像市平井1丁目19番1号		
自己評価作成日	2020/3/15	評価結果市町村受理日	2020年3月31日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般財団法人 福祉サービス評価機構		
所在地	福岡市中央区薬院4-3-7 フローラ薬院2F		
訪問調査日	2020年3月24日	評価確定日	2020年3月30日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

2020年に入り、新体制となりました。これまで以上に医療ニーズや看取り、日常生活機能訓練への取り組みを行っていただける体制を目指しています。(現在、看護資格者4名)また、ご利用者の尊厳保持、地域密着型事業所としての役割を理解するため、スタッフの意識強化に力を入れており、施設内外の研修参加を進めています。高齢化が進む地域において、介護相談や緊急時の対応ができるよう、運営推進会議等を通して、自治会の皆さんとの関係構築を継続しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

“グループホーム ファミリー”は宗像市にあり、開設20周年を迎えている。ホームは2階建てで、階段には電動昇降椅子を設置している。1階のホールには季節の飾りつけがされており、3月は化粧療法を取り入れ、ひな祭りの行事が行われた。2つのユニットのご利用者の交流は毎日、1階に集まり、レクやリハビリを行い、玄関前の花壇の花の水やりや野菜の収穫をされている。ご利用者も料理の下ごしらえをされており、季節の料理を楽しんでいる。前回の外部評価以降、「スピーチロック・ゼロ」の取り組みをされており、職員アンケートや勉強会を続けてこられた。職員個々の意識も高まり、日々の言動やケアの在り方の振り返りが行われ、着実に成果が見られている。医療連携も継続し、協力医療機関の医師が親身に相談に応じて下さり、アドバイスを頂いている。2020年1月から新施設長(看護師)が就任しており、今後もチームワークを強化していく予定である。ご利用者の個別ケアや留意点等を計画に増やすと共に、「移乗」「嚥下(誤嚥予防)」等の知識と技術の習得に繋げていく予定である。

自己評価および外部評価結果

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	常に意識できるように、施設内に張り出しています。毎朝夕の申し送り時や毎月のミーティング時に、理念の共有に努めています。今後さらに理念の意味を深く考え実践していけるように努めます。	新人職員にはオリエンテーションで説明すると共に、他の職員も一緒に日々共有している。「地域社会とのきずなを大切にします」という理念があり、地域交流を続けており、近隣の方から庭のミカの差し入れを頂く時もある。理念にある「心のふれあい」を日々の生活で大切にされている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会には参加させて頂いており、今後も利用者様が参加できそうな行事には参加させて頂こうと思っています。	統括と施設長が自治会の会議に出席している。小学校や保育園に出かけたり、東郷ミセンで行われる「お手玉教室」、地域の盆踊りや夏祭りに参加している。ハロウインの時に園児の訪問があり、楽しいひと時を過ごされた。今後も茶話会など、地域の方が参加しやすい行事を企画予定である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	あまりできていないのが現状ですが、今後茶話会などの行事を企画し、認知症の方との交流の機会を作り、少しでも認知症の人の理解をしていただけるように努めていきたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご出席の皆さまへ、事業所の取組みや行事についてご報告することで、地域の方との交流方法や地域行事への参加についてご意見を頂いており、スタッフの利用者様の社会参加への意識づけに繋がっています。	30年度から身体拘束等の適正化委員を同時開催し、「身体拘束の無い」生活を報告している。ホームの取組み等を報告し、参加者から意見や地域情報を頂いている。以前の参加メンバーの方が別の役職で参加して下さることになり、ホームの歴史を感じる機会になっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	「地域密着ネットワーク」の会議の席や市の窓口を尋ね、事業所の実情や取組みについてお伝えし、助言を頂いています。	「地域密着ネットワークむなかた連絡会」に統括や施設長が出席すると共に、2019年は「スピーチロック・ゼロ」の取組みを発表した。宗像市役所には毎月訪問し、ホームの取組みや空き情報を報告しており、その都度の課題への指導も頂いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修を通して身体拘束の定義について再確認し、実際の現場で身体拘束をしないケアに取り組んでいます。令和元年度は「スピーチロック・ゼロ」に取り組んでおります。	玄関から車道までの距離が短く、玄関を施錠しているが、天気の良い日は危険のない程度に開放し、庭の散歩や花壇の水やり等の機会が作られている。前回の外部評価以降「スピーチロック・ゼロ」に取り組み、職員アンケートの実施と共に、勉強会も続けており、着実に成果が見られている。	

7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月行われる全体ミーティングの中で、高齢者虐待防止関連法に関わる話に触れており、虐待防止に努めている。(議事録への掲載がありませんでしたので、事後、留意します)		
自己	外部		自己評価 実践状況	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は成年後見人制度について理解しており、社内の統括マネージャーと制度の活用について協議している。職員に関しては研修を通して制度について学ぶ機会を設けている。	ホーム内研修で権利擁護の勉強会が行われている。統括と施設長が制度利用の必要性を個別に検討し、統括(社会福祉士)からアドバイスを受けている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には説明を十分に行うとともに法令改定時は書類説明を行い同意書を頂いている。ご家族の不安を払拭できるように説明している。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者様やご家族様から運営に関する意見や要望を聞くために、意見箱を設置しているが、あまり活用できていない。運営についても、ご利用者様やご家族の皆様と話しやすい雰囲気を作っていこうと考えています。	新施設長になり、家族への電話連絡(ご挨拶)を続けている。面会時に暮らしぶりや健康状態を報告すると共に、不安の傾聴を続けている。自宅に外出時に「食欲がない」等の報告を家族から受けることもあり、原因分析に努めると共に、主治医からのアドバイスも頂き、家族と共有している。	今後も面会時に情報交換すると共に、ご本人と家族が個別にお話ができる機会を作る予定である。居室にノート等を準備し、職員との情報交換に利用したり、通信を作成し、暮らしぶりの報告の機会を増やしていきたいと考えている。
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	普段から話しができる雰囲気づくりを意識している。スタッフミーティングで出された意見については、役職者会議で報告し、必要と判断されたものについては、随時、実行しています。	2020年1月から新施設長が就任している。統括と連携して、職員個々の想いや要望を理解すると共に、職員同士の連携状況等も把握し、チームワークの在り方を検討している。今後は施設長を中心に、「中からも外からも良い施設」にしていくための更なる結束をしていく予定である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者交代に伴い、統括マネージャーが主だったスタッフと面談を行いました。新たな管理者も勤め始めたばかりですが、現在、全スタッフとの面談を開始しており、改善事項の把握に努めています。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	年齢や性別による採用基準の差を設けておらず、ご本人の意欲や体調に合わせた勤務形態の対応を行っております。	面接時は「やる気」や「価値観」「介護観」等の確認と共に、「ファミリーに合う方かどうか」「ご利用者に対して「してさしあげる」等の姿勢があるか」等を大切に採用している。職員個々の個性を大切にされており、適材適所で「できる仕事」をして頂けるように努めている。	

14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	ご利用者様の尊厳の保持を常に意識して指導に当たっている。また、全体ミーティングの際、統括マネージャーより、人権・倫理を尊重するための講義をしていただいている。	新施設長になり、職員個々の考えや要望の確認を始めている。「尊厳は守らなければいけないこと」「自分の価値観だけを求めないようにすること」等を共有すると共に、ご本人の行動を「問題」と捉えず、環境整備の仕方にも目を配るよう伝えている。	
----	------	---	---	--	--

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人一人のケアの実際と力量を把握してきている。今後、介護技術や記録の取り方、観察の仕方などについて研修を行っていく予定にしている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	平成21年から地域密着ネットワークに参加し同業者と交流する機会を作り勉強会等を行いサービスを向上させていく取り組みを行っている。		

II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前の事前面談でアセスメントシートに添って、ご本人の意向や要望または楽しみなどを伺い施設の中であってもご本人様らしく過ごして頂けるよう関係づくりに努めています。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が困っていること、不安、要望に耳を傾け、ご利用者様らしい生活を送って頂けるように、介護計画書を作成し、安心していただける関係づくりに努めている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時の担当者会議にてご本人様・ご家族様の意向・要望を伺い、ご本人様の出来ること。支援が必要な点について、入居前の生活情報を確認し、大きな変化を伴わない環境作りに心掛けています。		

20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の生活能力を評価しつつ、リスクとのバランスを検討しています。出来る限り、生活者としての役割を持って頂けるように、日々の関係性の構築を図る取組を開始しています。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族への、定期的な報告や、行事の案内と参加の促しを行い、ケアプラン作成に際し、ご本人を支える役割に配慮することとしています。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	入居の際になじみの方などがおられる場合は顔を見に来ていただくようお願いさせていただいています。	センター方式を活用し、生活歴等を記入している。自宅周辺のドライブや地域の敬老会に参加したり、地元の神社の初詣に行かれている。馴染みの方(友人の方)の面会もあり、居室等で過ごされている。家族と自宅に帰られたり、馴染みの美容室に行かれる方もおられる。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	極力気の合いそうな方たちが自然と話が出来るように、席の配置などを工夫しています。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用(契約)の終了については、看取りや入院後退院不可となったためであることが多いため、出来る限り退居後の連絡や、退居後も相談可能であることをお伝えしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活歴、趣味、普段の行動や言動に注意して、ご意向を推察し、ミーティングの席で、スタッフと協議しています。	生活歴や趣味等を伺い、「個人経歴書」等に記入しており、体調変化に応じてベンの色を変えている。ご本人の想い「ここで穏やかに暮らしたい」「帰りたい」等を傾聴し、家族と共有している。今後も音楽を流したり、室内の香り(アロマ)等を工夫し、会話を盛り上げていく予定である。	

26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントに添って、なじみの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過などもご本人が覚えていない場合は、ご家族やその利用者様をよく知っている人物からも聞き取りを行います。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	アセスメントシートに添った聞き取りや、スタッフからの情報提供を受けて1日の過ごし方、心身状態、有する能力の把握に努めています。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当介護職員に観察の目を養っていくために担当者ケアマネジャーでモニタリング・アセスメントを行い介護計画書を作成。担当者会議や全体ミーティングで内容を検討しています。	23領域に基づいたアセスメントシートを作られている。ご本人と家族の要望等を元に、計画作成担当者、看護師、機能訓練担当者、担当介護職員、ケアマネジャーと担当者会議が行われている。レクやリハビリも毎日行い、自立支援の視点も大切にされている。	今後も24時間のケア内容や「できる行為」と共に、医師、看護師、理学療法士等のアドバイスや留意点を介護計画書3表(日課表)等に増やし、職員全員で共有していく予定である。

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に介護記録を記入しています。よりケアの実践に活かせるように記録の方法(内容)を見直していきます。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	当事業所の看護師資格者が4名となり、医療的なニーズが要求される方への対応も可能となっております。また、様々なニーズに対応していけるように機能訓練担当者をたて、介護職員と協力して多機能化に取り組んでいます。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居前の生活の把握を行い、地域資源の利用について確認し、現状の生活の中で必要とする地域資源を把握することとしております。(外出支援など)		

32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居に際し、入居後のかかりつけ医について確認しています。協力医療機関については、内科の他、糖尿病内科、肝臓・胆のう・膵臓内科、循環器内科、呼吸器内科、神経内科、老年精神科、整形外科等を標榜しており、休日夜間を問わず、受診、入院の受け入れもして頂けます。	看護師が4人勤務し、往診時の対応や受診介助をしており、主治医から病状やケア内容の指示を頂くことができます。体調変化時は24時間体制でホームの看護師に相談でき、必要時は駆け付けて下さる。歯科医や皮膚科医(必要時)の往診もあり、皮膚科医は肥厚した巻き爪を切って下さる。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の関わりの中でとらえた情報は申し送りの中で看護職に報告しています。24時間看護職と電話連絡が取れる体制をとっており、医療的な対応は指示を貰ったり、様子を見に来てもらっています。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の準備、入院中の洗濯物などは、全て事業所ですべて対応しています。頻りに訪問する中で病院関係者と情報交換が出来ており、早期退院に繋がっています。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事前に意思確認が必要であり、変化がある場合、時期が近づいた際には、家族への連絡をこまめに行い、主治医へ相談を行うように努めます。	「ここで最期まで」と希望される方が多い。家族も訪問して下さり、職員と一緒に誠心誠意のケアをされている。体調変化に応じて、看護師が24時間の対応を行い、医師から「治療や入院の必要性」の説明が行われ、適切な医療機関の紹介をして下さる。足の浮腫に対し、「弾性ソックス」の着用の必要性等も指示して下さっている。	新施設長が看護師であり、今後ご利用者と家族の意向を確認し、記録に残すと共に、看取り対応についての研修やグリーフケア、デスカンファレンスの取り組みを行う予定である。

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生対応マニュアルに基づき全スタッフの教育を実施しています。また、応急手当については看護師より初期対応・発生時対応の説明と確認を行っています。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練の際に夜間の火災を想定して実施する等、日頃から緊急時の対応について意識するようにしています。地域との協力体制に関しては、運営推進会議を通して、災害時の対応と協力体制をお願いしています。	農業事務所(倉庫)をリフォームしており、頑丈な造りになっている。重度の方は1階で生活されており、2階の方は「すべり台」で避難できる。災害に備え、食料や飲料水を確保している。新体制になっており、消防計画や自然災害等のマニュアルの確認、避難方法の検証を行う予定である。	

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日頃から、長い人生を歩んでこられた人という意識を忘れずに、節度を持った声掛けができるようにスタッフ間で注意する意識をもつようにしています。	2019年度は、「スピーチロック・ゼロ」に取り組み、「BPSDはコミュニケーションの手段である」ということをスタッフ全員が認識し、ご利用者の行動の背景を考えるように努めてこられた。プライバシーの配慮に努め、入浴、排泄時は露出を少なくし、同性介助をする方もおられる。
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	コミュニケーションを図ることが難しくなっている利用者様に対しても普段の行動や表情から現れる思いや希望を見逃さずに推察しながら選択の余地を持てる対応を心がけています。	
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居時より、どのような生活スタイルで過ごしてこられたのか、その方のペースで趣味活動や日常生活上の楽しみを継続できるように生活歴の把握に努めています。	
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	3月には化粧療法を取り入れたひな祭りの行事を企画しました。2ヶ月に一度の理美容の際に、希望やその方にあったヘアスタイルや髪染め等の依頼をしています。	
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者様の重度化が進んできており、なかなか一緒に準備や片付けが出来なくなっています。食事を楽しむことが出来るように席の配置に配慮し、BGMについて工夫しています。	食事介助が必要な方もおられ、嚥下状態を丁寧に観察しながら、体調に応じたケアが行われている。ご利用者の方々も「もやしの根取り」や人参の皮むきをして下さり、誕生日のケーキを一緒に作られている。畑の野菜作り(ゴーヤ、トウモロコシ等)も行い、収穫を楽しまれている。

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ご利用者様の生活歴や入所時の聞き取りで好みを把握し、献立を考える上で参考にしています。梅干しなどの付け合せの希望がある方は、健康に支障がない程度で持ち込んで食べて頂いています。		

44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	訪問歯科医に助言いただき、ご本人様の状態にあった口腔ケアを行っています。また、入れ歯や口腔ケアの道具に関しても定期的に除菌しています。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンの把握に努めトイレ誘導を行っています。また、ご本人様の身体状況に合わせ、リハビリを行いながら、紙パンツから、ポータブルトイレ、ポータブルトイレから、トイレ誘導ができるように状態に合わせて対応しています。	排泄が自立して、布の下着を使用する方もおられる。立位が難しい方もおられ、2人介助で丁寧な介助が行われている。日中、紙オムツからリハビリパンツに変更し、トイレ誘導できるようになった方もおられる。立位が取れるように日々のリハビリも続けている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事量、水分摂取量、排泄パターン等を記録し、排便が2日以上ない方に対しては、主治医に相談し服薬を含め検討しています。食事については食物繊維を多く含む食材をなるべく使用するようになっています。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	安全に入浴できる範囲で、ご本人の希望やタイミングに合わせて入浴を楽しんでいただけるように配慮していきます。	入浴好きな方が多い。入浴を拒まれる時は翌日にずらし、無理強いしないようにしている。入浴時は職員との会話を楽しまれ、笑い声も聞かれている。自立支援を大切に、できる所は洗って頂いており、体調に応じて2人介助をされている。浴槽が少し深いので、補助具も使用している。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入眠時間の定めはなく、健康上支障がない範囲で、テレビを見られたり、読書をして過ごしたりして頂いている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ご利用者様ごとに、薬の内容を熱計表に記入し職員が把握できるようにしています。薬の変更や追加があった場合は看護スタッフから、副作用等の注意点、観察して欲しい症状の変化について説明、申し送りで周知しています。		

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	現在、ご利用者様の重度化が進んでおり、役割等を持てる方が少なくなってきましたが、身体状況に応じ、レクリエーションや行事等で楽しみが持てるように支援しています。		
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご利用者様の重度化が進んでいることと、寒い時期で外出頻度は低くなっていますが、暖かくなってきたらお庭に出る機会を増やし、イベントなどを通して、ご家族様や地域の人々と協力して外出する機会を増やしていきたいと考えています。	庭の花見を楽しまれたり、野菜作り、庭園の散歩をされている。上西郷川公園のコスモまつり、宗像大社の菊花展、吉田ガーデン(バラ)の見学など、季節の花見に行かれている。地域の敬老会でグローバルアリーナに行かれたり、スーパーやホームセンター等に食材や野菜、花の購入に出かけている。家族とお墓参りや食事に出かける方もおられる。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご利用者様の重度化が進んでおり、お金を使う機会はほとんどありませんが、今後、お買い物に出かける機会などを増やしていきたいと考えています。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族と連絡を取りたいと望んでおられるご利用者様は多いので、ご家族様の都合を伺い、談しながら、連絡の機会を作りたいと考えています。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関ホールのやリビング壁の飾りつけを通して季節感を感じていただけるように工夫しています。また、リビング玄関ホールや居室で温度差が出ないように配慮しています。	宗像市の「花いっぱい運動」に協賛し、花壇等に花を植えていたが、今年度で終了する。今後も花植えは継続予定である。玄関等に季節の飾り(お雛様など)や作品、行事の写真、アルバムと共に、ご利用者等の素敵な所を記入し、掲示している。両ユニット合同で、1階で体操やレク等が行われており、換気や消臭対策も続けている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合うご利用者様同士の会話が弾むように配席に工夫しています。また、他の利用者様との交流がストレスになっている方もおられ、ご本人が落ち着いて過ごせるような場所の提供をスタッフで見守りを行いながら対応しています。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご入居時に、ご本人様・ご家族様に相談し、ご本人様が居心地よく感じて下さるように、なじみのものや写真の掲示をしていけるように配慮しています。	担当職員が飾りつけや整理整頓をされており、掃除担当の職員も配置している。ベッド(一部は電動ベッド)は備え付けであり、家族の写真や遺影などと共に、テレビやラジカセ、文庫本等を置かれている方もおられる。	

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	食堂やトイレは案内を大きく掲示しており、食事時間や入浴時間等の日課表を居室に掲示して自立に向けた支援ができるように配慮しています。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				